

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 3 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100942		
法人名	社会福祉法人フェニックス		
事業所名	グループホーム かんべの里		
所在地	広島市安佐北区可部七丁目13番15-1-9号 (電話) 082-554-8800		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100942-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 24 日(木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・地域との相互交流 ・利用者の残存機能を生かした生活スタイルの確立 ・法人が運営する他事業所との交流 ・自家栽培した野菜などの食事提供 ・季節に合わせた食事、行事

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームかんべの里は、可部市内中心部で市役所、ショッピングセンター、学校があり、交通の便の良い場所に位置しています。法人の理念(こころゆたかに、やすらかに、たのしく、やさしく)を揚げ家庭的な環境と、地域交流の下で、安心と尊厳ある生活になるように支援しています。利用者一人ひとりの生活の中から興味のある事を探し、個々に合った役割が持てるように、事業所内でのリハビリを中心に体操、散歩、カラオケ、畑での水やり、収穫、新聞の天風録を模写する等、好きな事を日課として楽しみながら過ごしています。事業所の周辺は、広く菜園があり季節毎に植えられている野菜(今は玉ねぎ、そら豆、エンドウ豆他)を見て楽しみに散歩し、気分転換や四季の変化を感じている。畑で収穫した野菜は、食卓に上り皆さんとても喜ばれている。普通の要求が実現出来る様利用者の立場に立って、共に良い表情で一日一日を大切にするような環境を作り、職員は様々なケアに対応して工夫をしているグループホームです。

グループホーム かんべの里

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念「くこころ」ゆたかに、やすらかに、たのしく、やさしく」ユニット理念「心身を健康に心を癒し満足できる毎日を送る(れんげユニット)」「望む生活を意欲向上に繋げる(つくしユニット)」を掲げ管理者、職員は実践している。	法人の理念(こころゆたかに、やすらかに、たのしく、やさしく)を毎朝唱和し、フロア毎の理念を揚げ、職員全員で意識統一を図り業務の実践に繋げている。又、職員は、ミーティング時等に理念について話し合い、日々のサービスの提供場面でも理念を意識してケアにあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事に参加、ボランティア、慰問訪問、月1回の町内会役員に参加し、情報共有、発信を行うようにしている。今年度はコロナウイルス感染症対策の為、地域行事の参加を中止となっている。	町内会に入り地域行事に利用者は参加していて、日頃から散歩の際、挨拶を交わしている。事業所の行事ではボランティアの方々の参加で交流をしていたが、コロナ禍で中止となっている。回覧板で地域の情報を収集している。	新型コロナ感染予防の中、地域との交流行事は、難しく、コロナ禍が終息したら、以前の様に地域の方との交流を再開される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議、避難訓練、施設の祭りに参加していただいている。見学対応は随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施している。町内会、民生委員、教育機関、地域包括支援センター、介護施設職員等、住民、福祉教育機関と共同で活動報告、地域活動を協議し、今後のサービスに繋げている。今年度は書面での実施。	運営推進会議が2ヶ月に一回、町内会長、民生委員、学校長、地域包括支援センター職員、会社役員、高齢者施設長、事務長、管理者で開催されていたが、コロナ禍で中止となり、今年度は事業所内で自主的に行ない、活動状況報告をし、その内容は市役所、関係者に書面で送りお知らせし、意見や助言を得ている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内の送付、市町担当者と連絡を取り、介護保険の相談にのってもらっている。	市役所には運営推進会議の連絡をしている。介護保険課には直接出向いて更新の手続きを行ったり、わからない事を聞き、情報を得て連絡を取っている。地域包括支援センターとは、空き情報等を連絡している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議にて定期的に話し合い、学び、法人内で身体拘束委員会を設立しマニュアル作成、チェックリストでの確認をしている。身体拘束の研修参加や法人内研修を開催している。現在身体拘束はない。	身体拘束について法人全体で2ヶ月に一回、話し合い研修が行なわれている。身体拘束の排除で玄関の施錠はしない、利用者の行動の自由、意見表現を尊重し、日々のケアに心がける等指導している。事業所では3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会で具体的事例を挙げ参加者からの発言があり、事例検討をして身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で虐待防止委員会を設立しマニュアルの作成、チェックリストで確認をしている。虐待防止の研修参加や法人内研修を開催している。日頃から入居者の身体、対応方法を申し送り確認し、虐待防止に向けた意識をしている。		

グループホーム かんべの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見制度を活用している入居者もあり、勉強会を通して知識の向上に努めている。必要があれば、活用できる支援をしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に入居者、家族に十分に説明を行い、理解、納得され同意をいただいている。質問、不安に思われる事は、ご理解いただくまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱の設置、電話、面会時に気軽に意見、要望を話していただけるようにしている。毎月「かんべの里だより」を送付したり、ブログの更新、なかなか面会に来れない方にはメール、Web面会等も活用している。	家族の要望は、電話・メール等で聞き内容は事業所で検討し、運営方針に可能な方向で反映されている。家族には、毎月手紙、かんべの里だよりを送り、ブログ更新し利用者の様子を伝えている。面会ができない方にはメール、Web面会をされる場合もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議、運営会議で職員からの意見、提案を聞き反映させている。	毎月事業所会議で職員の意見、要望を聞き情報やケアの統一を図っている。年2回の個人面談を行っている。管理者は、毎朝の申し送り時や日常業務の中でも職員の話や意見を聞くよう努めている。業務改善や勤務時間の変更等、職員からの提案や意見は、その都度話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価表を用い、人事考課面談を行い、管理者、職員の意見を取り入れ、実績や努力を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修で研修委員会を設置し、月に1回以上法人内研修、外部研修、事業所内での勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣施設に対して、見学機会を設けたり、日ごろの悩みを相談できるような取り組みに努力している。		

グループホーム かんべの里

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、入居者、家族に面談を行い、本人、家族の思い、要望を聞き取り、安心した生活作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、入居者、家族に面談を行い、本人、家族の思い、要望を聞き取り、安心した生活作りに努めている。事前に見学対応、入居後もスムーズに慣れていただけるよう、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望の段階で本人、家族の「困っている事、不安に思っている事」を聞き取り、サービス利用時に何が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に暮らしていく生活の場として、食事、家事などを一緒にしていき、共感する事で、共に暮らしていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な家族への手紙、状態や変化の様子を伝え、家族にも関わっていただけるようなケアや気軽に面会に来ていただける様、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会制限を設けず、これまでの関係性を大切にし、電話の取次ぎ、Web面会等本人の望まれる関係を続けていけるように努めている。	コロナ禍で継続ができない場合もあり、家族、友達との関係が途切れないように電話、Web面会で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を把握し、席の配慮、職員が橋渡したり、レクリエーションを通じて社会性を持ってもらい、孤立しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了しても、必要に応じて、家族のフォロー、相談に努めている。		

グループホーム かんべの里

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り入居者からの希望、意向を聞き取り、時には家族に相談し本人の思いを汲み取るようにしている。	日々の利用者の意向を聞き取り、家族からの情報を共有し、利用者の外食への希望を出前やテイクアウト(寿司、ハンバーグ、中華料理)で取り寄せて喜ばれている。室内で対応出来る希望には応じて、日々の会話の中で思いや、意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族に相談したり、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談、本人の関わりにより、これまでの生活習慣の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送り、介護記録を基に、入居者の心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にカンファレンスをし、入居者の希望、現状をアセスメントし、本人、家族、主治医の意見を取り入れながら介護計画(半年～一年)を作成をしている。	職員間で日々の振り返りや会議で職員の意見交換を行い、モニタリングを半年に一回、医療関係者、職員、家族の意見、要望を聞き介護計画を作成している。変化があればその都度見直しをし、目標に対して出来ているか確認をして作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送り、介護記録を基に、カンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族からの希望を聞き取り、都度、多様なニーズに対応出来る様、柔軟な姿勢で取り組む努力はしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現状の地域支援を把握し、地域交流カフェ、地域ボランティアを利用しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関からの往診やかかりつけ医の往診を活用し適切な医療を受けられるように努め、職員付き添いの元、家族の協力による受診等、訪看と健康相談、医療連携ファイルを用意し、連携に努めている。	かかりつけ医は2週間に一回の訪問で受診している。訪問歯科医は毎週、専門医受診は看護師同行で受診、訪問看護師は毎週来て健康観察が行われている。医療連携ファイルには、全ての医師、看護師が目を通し、薬、健康状態が記入され、各関係者のサインがあり、適切な医療を受ける事ができている。24時間対応の医療連携を安心して受ける事ができている。	

グループホーム かんべの里

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携ファイルを活用し、協力医療機関などの、訪問看護、施設看護師と常に連携を取り、早期対応、適切な受診や看護をうけられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状、入居者にはいないが、訪問看護事業所施設看護師と日頃から相談しやすい環境作り、コミュニケーションを図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を本人、家族と共有し、意思の尊重をすることを目標とし、ホームでの希望をされる場合には、事前説明、確認、同意を取り、関係者と共に支援に取り組んでいく。	契約時看取りの指針を家族に説明している、実際、重度化された場合、家族の思いを尊重し、家族、医師、看護師と事業所で話し合い方向性を共有し支援している。家族の要望で医療が必要になった場合、入院や転院される方もあり、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル整備、救命救急講習の受講を行い、全職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜別で消防避難訓練を他事業所と連携を取りながら行っている。普段は地域住民の方も参加してもらっているが、コロナウイルス感染症対策の為、今回は法人のみで行っている。	年2回の避難訓練を一回は消防署立ち合いで指導を受けて実施、一回は事業所で行い、避難、連絡、消火(水消火器使用)を実施、利用者を火から遠い場所に誘導、特に夜間想定で新人職員を優先に体験して行われている。今はコロナ禍で地域の方の参加はされていない。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	敬いの気持ち、排泄、入浴ではプライバシーを損なわない様に配慮し、自己決定出来るように努めている。定期的にカンファレンス等でも確認し合っている。	毎月会議でケア方法の確認や、接遇研修を行い排泄、入浴の際のプライバシーについて重点的にを行い、職員は利用者目線で対応し、不適切な対応には指導している。利用者の個人情報適切に保管され、守秘義務は職員間で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の思いや希望を聞き取り、喜び、楽しみが表現出来る様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペース、生活リズムを尊重し、都度お伺いし、自分の意思、自己決定にて支援している。		

グループホーム かんべの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容、家族の協力の元、いきつけの美容院、更衣時は、衣類は本人に選んでもらい、その人らしい、おしゃれを楽しんでいただける様、支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の残存能力に応じて、一緒に行っている(テーブル拭き、配膳、下膳)。季節に合わせた食材の食事提供を心掛けている。利用者の能力に差はあるが少しでも関わっていただけるよう職員と一緒にしている。	昼食は事業所の旬の野菜を使い手作りで提供される。朝夕は食材業者の食事を提供される。年間の行事食は手作りで、おやつ作り(ホットケーキ、ゼリー、大学芋)も利用者と一緒に作られている。コロナ禍で外食が中止の為、利用者の好みを聞き、お寿司、お好み焼き、刺身、中華料理等デリバリー、テイクアウトで楽しみな食事を提供されている。利用者で職員と一緒にできる方は、配膳、片付け、テーブル拭き、野菜の皮むき等利用者の得意な場面で活躍されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の状態、好みに合わせ、バランスを取りながら行っている。メニューへのカロリー表示と都度、記録に記入しながら、職員間の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、定期的な歯科訪問診療のケアで支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを確認し、トイレ誘導を行い出来る限り、トイレでの排泄を行えるよう支援している。入居者全員トイレでの排泄が出来ている。定期的なカンファレンスで確認も行っている。	一人でトイレ排泄ができる方、定期でトイレに行かれる方、排泄の有無を確認し、便秘の方は看護師が薬を使用し、定期的カンファレンスで安心した排便になるよう支援される。布パンツ、紙パンツ、パット使用と色々なパターンで使われ、全員トイレ排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量、食事の摂取量など日々の記録で排便状況を把握し、散歩や体操など体を動かす事で予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回入浴日を設け、その日の状況、体調、気分に合わせて入浴支援を行っている。体調不良等で実施出来ない時は日にちを変えたり、清拭で対応している。希望者には足浴等も行っている。	週2回の入浴を目途に個々に応じたスケジュールで、体調や気分に合わせて、シャワー浴や足浴の支援をされる。利用者の好みの入浴剤や、柚子湯を使用して、ゆっくりと入浴が楽しめるようにコミュニケーションの工夫も図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご自身で使用されていたベッド、家具など持ち込んでいただき、安心して、くつろいでいただけるような空間を作り、夜間定期巡回での、温度設定、寝具の調整をし安定した睡眠を支援をしている。		

グループホーム かんべの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬には十分に注意し、薬剤情報(目的、副作用など)理解し、一人ひとりの薬ボックス用い、日付、名前を職員2名での確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力に合わせて、家事仕事を一緒にに行い、クラブ活動、サロン参加の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の買い物、散歩、畑仕事、地域行事の参加により楽しみのある生活が送られるよう支援している。コロナウイルス感染症対策の為、敷地内の散歩はしているが、行事などは中止している。	日頃から買い物、散歩と外出の要望を楽しまれていたが、今は制限があり、事業所の周辺は広く菜園があり季節毎に植えられている野菜(今は玉ねぎ、そら豆、エンドウ豆他)を見て楽しみに散歩し、気分転換になっている。外出ドライブで土師ダムの桜を見に行かれ、写真を撮ったり、車窓から季節を感じ楽しみな外出支援がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症により、金銭管理が困難な入居者はいるが、家族理解の元、多少の現金を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望の元、電話の授受、手紙のやりとりのお手伝いの支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに畳やソファを設置し、過ごしやすい空間作り、個人の居室には好みの物、馴染みの物を置き、環境作りに努めている。個人の作品や季節に合わせて装飾品も変えている。	明るいろリビングにはソファ、テーブルを囲み利用者の過ごしやすい雰囲気です季節毎のぬい絵、貼り絵、花の折り紙、習字が飾られ換気、温度、湿度の空調が管理され生活感、季節感を取り入れた場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアのリビングには、ソファやテレビを設置し、窓からは畑が眺められ、日中は思い思いに過ごされている。入居者同士の繋がりを大切にしている。		

グループホーム かんべの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく、自宅で使われていた馴染みのある物を持って来ていただき、家庭での延長の様な、居心地の良い、空間作りに努めている。	居室には使い慣れた家具、タンス、鏡台、仏壇、椅子、机、ソファ、家族写真、ラジカセ、化粧品、ぬいぐるみ、ハンガーラック、編み物用具が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各所に手すりを設置、車椅子や歩行器など安全に利用できるようにバリアフリー化され、見守りや付添いを行いながら、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム かんべの里

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム かんべの里

作成日 令和 4 年 3 月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域行事参加、地域交流の参加が少なかった。	地域交流の参加をする。	定期交流の場に出掛け、認知症の理解、事業所を知ってもらう。	6か月
2	13	職員育成	スキルの向上をし、入居者に十分なサービスが行え、職員、入居者と共に生活をしていけるよう支援する。	職員教育のシステムの構築。研修参加。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。